

② 第2委員会

「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」



それでは、第2委員会の意見を発表します。

第2委員会のテーマは「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、8月1日に西部医療センターの施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、^ぶにん婦さんも安心して入院できるような工夫や、最先たんの^{いりょうぎじゅつ}医療技術を使って^{ちりょう}がん治療などが行われ、がんも治せることがわかりました。さらに、入院から^{たいいん}退院までの^し支えんもしてくれることもわかりました。全て^{かんじゃ}患者さんのことを考えて工夫していることに^{わたし}私たちは感動しました。

その後、^{わたし}私たちは、^{しせつ}施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするためには、何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

^{わたし}私が考えたことは、いじめなどがあっても、自殺を考えずに命を大切にすることや、いじめを見かけたらしっかり助けてあげて、自殺を考える人を減らすこと。

思いやりのあるまちにするには、^{こま}困っている人を助けてあげたり、車いすの人に道をゆずったり、電車でお年寄りやにん婦さん、病気を持っている方に席をゆずったりして、思いやりのあるまちにしようと考えました。

○子ども議員

^{わたし}私は、医療証^{いりょうしょう}について発表します。

^{わたし}私の知り合いに、お母さんのいない家庭、いわゆる父子家庭の親子がいます。そのお父さんが医療証^{いりょうしょう}についてのなやみを打ち明けてくださいました。片親^{かたおや}の場合、その片方^{かたほう}が父であろうと、医療証^{いりょうしょう}の左側に「母」と書いてあるそうなのです。なので、看護師^{かんごし}さんが、連れてきた父を子どもの親の知り合いだと思ったのかはわかりませんが、子どもの前で、きょうの付きそいにお母さんはいますかと聞いてしまうそうなのです。子どもはいろいろな理由があって父子家庭になっているし、心に傷^{きず}を負っているので、子どもの前でそういうようなことを言われると、少しいやな気持ちになると言っていました。

そこで、^{わたし}私は医療証^{いりょうしょう}に「父」というものをつくればよいのではないかと思いました。片親^{かたおや}だからといって、それが母だとは限らないと思ったからです。片親^{かたおや}の人の気持ちも考える、テーマにもある思いやりが必要だと思います。

○子ども議員

ぼくは、がんイコールつらい治療だと思っていました。でも、西部医療センターの見学を通じて、間ちがっていたことがわかりました。ここで行われている陽子線治療は、体内的な負担や副作用のリスクが少なく、熱さや痛みもなく、身体に優しい治療があることを知りました。苦しみが和らぐ治療を行うことによって、笑顔が広がる名古屋市になっていく未来が見えました。

○子ども議員

西部医療センターを見学して、ヘリポートやふれあいの丘、体に優しいがん治療の機械などの必要な設備がそろっていて、完ぺきな病院だなあと思いました。でも、心と体はつながっていて、それぞれえいきょうし合っていると思ったので、それぞれの患者さんの気持ちのあり方が大事かと思いました。

なので、私は、患者さんはもちろん、患者さんにかかわる周りの方々も、リラックスできる場所をもっとつくるといいと思います。

○子ども議員

私が西部医療センターで印象に残ったものは、分べん室です。なぜなら、ピンク色のかべや、男性の助産師さんなどがいないという女性に優しい工夫があったからです。ですが、これは西部医療センターという小さな世界と、女性という小さな、とても困っている人にしかすぎません。世の中には、身体障害者やお年寄りなど、困っている人がたくさんいます。

私は、前にニュースでこんなことを見たことがあります。それは、エスカレーターでの人身事故により右足がまひしてしまった男性の話です。この男性は、エスカレーターに乗るときは、右側・左側というルールにとらえられて乗っていたところ、事故にあってしまったそうです。ですが、その男性は、右足がまひしているのに、やはりどうしてもそのルールに逆らわなければなりません。ですが、やはり私たちのような、そういう常識というものとらわれてしまっている人がいるので、チッと舌打ちをされたことがあるということです。これは、思いやりではないと私は考えます。

それに、電車などでもそうです。今はスマートフォンなどがふきゅうしているのに、電車の中でスマートフォンを見ている人がたくさんいます。それは私はよいと思うのですが、それを見て優先席に座っている人がいて、お年寄りやにん婦さんなど困っている方に気がつかない人がとても多いと思います。このことや、さっきのエスカレーターの話など、これは私はとてもいけないことだと思います。

だから、私は、この名古屋市に必要なことは、みんな一人一人が思いやりを持つことだと思います。だから、私も日ごろからそれを心がけ、ここにいるみなさんにも心がけてほしいと思います。

○子ども議員

私が見学させていただいた西部医療センターは、患者さんへの思いやりがすごくある病院でした。

その中で患者さんをすごく思いやっているのは、赤ちゃんを産む分べん室だと私は思います。なぜなら、赤ちゃんを産むベッドはとてもやわらかく、お母さんの楽な姿勢で赤ちゃんを産めるよう、ベッドの向きが変えられたりしたからです。

私は、この病院にいと、とても安心しました。なので、このような思いやりのある施設がもっとふえていけばよいなと思いました。

○子ども議員

私は今回、西部医療センターの見学をしました。そこで働く看護師さんやお医者さんを見て、治療をしているときや機械をあつかっているときはすごく真けんな表情で、患者さんや人に接するときは優しい表情で思いやりのある態度がすごくいいと感じました。

「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするためには、今でもまだ治せない病気があるので、治せるような機械が発展して、もっと多くの人々が病気から助かってほしいと思いました。

○子ども議員

「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするには、病気やけがをしている人やお年寄り、にん婦さんを大切にしたらいいと思います。そして、バスや電車の中では席をゆずり合い、耳や目が不自由な人が横断歩道をわたるときは声をかけてみたり、ノートなどに「気をつけてわたってね」などのメッセージを書いて伝えたり、わたることを手伝ったりしたらいいと思います。

このように、人の気持ちをよく考え、優しく接することが大切だと思いました。

○子ども議員

まず初めにぼくがすごいと思ったものは、C T装置そうちです。C T装置そうちの内部の機械が1回転する速さは、何と0.4秒、そして、輪切りの写真をとるのにかかる時間は何と10秒もかかりません。これは、昔と比べくらるとすごい速さで、昔は輪切りの写真を1枚まいとるのに10分もかかっていました。

ぼくは、改めて医学の力はすばらしいなと思いました。

○子ども議員

私は、西部医療センターを見学して、たくさんの命を救う現場げんばを見ることができました。特に印象的だったのが、看護師かんごしさんの笑顔です。また、たくさんの治療ちりょうや病気を発見するための最新の医療機器いりょうも見せていただき、とても心強く感じました。なぜなら、がんなどの病気は早期発見により治せる確率かくりつがぐんと上がったと新聞で読んだからです。

名古屋市では、ワンコインで受けられる検査けんさもあるので、検査けんさを受けるよう家族や周りの人たちに伝えていきたいと思いました。

また、何より、日本一みんなが健康で長生きできる都市名古屋を目指していきたいです。

そこで、私わたしから提案ていあんがあります。がんの第1原因げんいんであるたばこに高い地方税ぜいをかけることです。そうすることで、たばこを買おうと思う人が少なくなると考えたからです。

○子ども議員

ぼくは、西部医療センターの見学で、PET-CT装置が一番心に残りました。がんはおそろしい病ですが、その装置では、初期のがん細ぼうの発見が可能となり、がん細ぼうが成長する前に治療ができます。それは、がんによる苦しみを減らすことにつながります。

ここには、ほかにもたくさん医療機器がじゅう実していました。名古屋市民にとって、ここはとても大きな存在であると思いました。

○子ども議員

ぼくが考えたことは、何か困っている人、大変そうという人に声をかけてお手伝いして、その人の役に立てることをたくさんするまちになると、みんなが気持ちよくくらせるまちになると思います。

ぼくはそういうまちをこれからちょっとでもいいので、たくさんつくっていききたいです。

わたし

私たち第2委員会は、このようなことが名古屋を「いのちを大切にし、思いやりのあるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第2委員会の発表を終わります。

■ 小出^{ざいせいふくし}財政福祉^{どうべん}委員長の答弁

第2委員会の委員のみなさん、大変おつかれさまでした。とてもすばらしい発表を本当にありがとうございました。

そして、人としても大変すばらしいみなさんと3日間議会活動ができたことを心からうれしく思っています。

みなさんは、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」をテーマに^{ぎろん}議論し、西部^{いりょう}医療センターを視察^{しさつ}し、全体の意見をまとめ上げ、本日すばらしい発表をなすとげました。

まず、みなさんの委員会における^{ぎろん}議論がとにかく立派^{りっぱ}でありました。子ども委員長と子ども副委員長の進行も完ぺきと言っていいでしょう。また、委員のみなさんにおいても、自分の考え方や方法論^{ろん}をしっかりと具体的に発言する姿^{すがた}には、正直おどろきました。そして、その発言に対して異論^{いろん}がある委員は、しっかりと対案^{しめ}を示す。さらには、他の委員が両案をほり下げて新たな提案^{ていあん}をする。そして、全体の^{じょう}状況を見て委員長がまとめ上げ、みんなが納得^{なっとく}して一丸となる。そして、その後はけろっとして次へ進んでいく。すばらしいみなさんの^{ぎろん}議論をする姿^{すがた}を拜見^{はいけん}し、この国の未来は明るいなど改めて思いました。



西部医療センターを視察していただきましたが、ごらんいただいたとおり、名古屋市の医療は世界有数であります。私たち名古屋市民は、そんなすばらしい医療環境の中にいます。そのような環境の中で、今回の子ども市会で学んだことを通じて、自分は何ができるんだらうということを常にしっかりと考えていただき、ぜひとも実践につなげていただきたいというふうに思います。

今回は、「いのちを大切にし、思いやりのあるまちづくり」というテーマでしたが、私は、第2委員会のみなさんはもうすでに命を大切にし、思いやりのある子どもたちであるというふうに思っています。だからこそ、ぜひみなさんをお願いしたいのは、今回のテーマについて思ったことや考えたことをぜひ行動に移していただき、この輪を大きく広げていただきたいというふうに思います。

みなさんが二十をおかえるころには、アジアのオリンピックであるアジア競技大会、そしてリニア中央新幹線が開業をいたします。名古屋はきっと世界有数の国際都市へと進化していることでしょう。そんな名古屋市を背負っていくのは、ここにいるみなさんです。みなさんが世界一命を大切にし、思いやりのある名古屋をつくり上げる担い手となっていただくことを大いに期待します。

最後に、田山副委員長、長谷川副委員長、ご指導いただいた古川先生、西部医療センターの先生方、名古屋市の職員のみなさんへの感謝の心とおかげさまの心も忘れないうでください。

